

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	イタリアの文化とことば (Culture and Language in Italy)			新座(Niiza)
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イタリアルネサンス・バロックの文学と美術			
担当者名 (Instructor)	山本 樹(YAMAMOTO ITSUKI)			
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)	
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)	
備考 (Notes)				

授業の目標(Course Objectives)

- ・イタリアのルネサンス・バロック期の文学や美術作品に関する知識を身につける。
- ・イタリア文化に親しみ、理解するうえで重要なキーワードを身につける。

Course objectives are to:

- ・Acquire a knowledge of Italian literature and art of the Renaissance and Baroque periods.
- ・Familiarize yourself with the key words for the understanding of Italian culture.

授業の内容(Course Contents)

イタリア語を習ったことのある人は少ないかも知れませんが、料理や映画、そして音楽など、実は多くの人が日常の中で知らないうちにイタリア発祥の文化に触れていることでしょう。本講義ではイタリアルネサンス・バロックの文学と美術をテーマに、イタリア文化についての理解を深めることを目指します。まずはルネサンス以降のイタリア語の代表的な文学作品をとりあげ、文法や内容を確認すると共に、その時代背景や精神を学びます。後半では言葉と視覚芸術が結びついた例として、特に16世紀以降に豊かな展開を見せたエンブレムの文化について詳しく見てゆきます。また、芸術家の生涯や作品が美術史においてどのような言葉で記述されてきたのかを、いくつかのキーワードを軸にしながら考えてゆきます。

イタリア語の文法事項については適宜講師が補いますので、初学者の参加も歓迎します。

Although there are very few opportunities to learn the Italian language in Japan, the culture of Italian origin can be found in our daily lives, in food, film or music. This course aims to introduce students to Italian culture through Italian Renaissance and Baroque art and literature. The first half of the semester deals with some of the important works of Italian literature from the Renaissance and Baroque periods, learning their grammar and content, considering their historical background. The second half of the course deals with some examples of the relationship between words and images, specifically the culture of emblem books which highly developed from the 16th century onwards. It also deals with some of the terms in which the artists' lives and works have been described in art history.

The tutor will provide supplementary explanation on Italian grammar. Students who have never been studied Italian are welcomed.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 概説:美術史とテキスト
3. ルネサンスの文学(1):ダンテ
4. ルネサンスの文学(2):ボッカチオ
5. ルネサンスの文学(3):ペトラルカ
6. 宮廷文学(1):アリオスト
7. 宮廷文学(2):タッソ
8. エンブレムと擬人像(1)
9. エンブレムと擬人像(2)
10. エンブレムと擬人像(3)
11. ルネサンスの美術史叙述
12. バロックの美術史叙述
13. 画家の書簡と手記
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

文学や美術に限らず、まずは自分の好きなことを入口にしてイタリアの言葉や文化に親しんでみてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

リアクションペーパーの提出およびその精度(50%)/最終テスト(Final Test)(30%)/中間課題(20%)

リアクションペーパーの提出およびその精度(50%)、中間課題(20%)、期末の論述課題(30%)に基づいて総合的に評価します。リアクションペーパーは出席確認を兼ねているため、遅れて提出された場合は「遅刻」、未提出の場合は「欠席」とします。4回以上欠席した場合は成績評価の対象としないので注意してください。また、中間課題のテーマおよび実施日は予告しません。

テキスト(Textbooks)

関連テキストは配布資料に掲載し、授業中に紹介します。

参考文献(Readings)

1. トルクアート・タッソ、1987年、『愛神の戯れ—牧歌劇「アミンタ」』、岩波文庫 (ISBN:4003271017)
2. ダンテ・アリギエリ、2008年、『神曲 地獄篇』、河出文庫 (ISBN:4309463118)
3. マリオ・プラーツ、2008年、『フランチェスコ・ピアンタの奇矯な彫刻』、ありな書房 (ISBN:4756608019)
4. 井上ひさし、2010年、『ボローニャ紀行』、文春文庫 (ISBN:4167111284)
5. 和田忠彦、2015年、『イタリア文化 55のキーワード』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623072682)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

連絡事項がある場合は Blackboard に掲示します。

注意事項(Notice)